

# スペインに学ぶ

コース:国際交流・協カコース

グループ名:スペイン探検隊

メンバー:伊東 浩一、大谷 寿美雄、大前 美智子、北口 時子、堀口 彰

指導プロフェッサー:野口 ジュディー 津多江先生

## 1. テーマ選定の理由

スペインはカトリック国であるが、8世紀より15世紀までアフリカのイスラム王朝に征服され、イスラム文化とキリスト文化が融合した文化を育んできた。また、大航海時代には「太陽の沈まない国」として世界中に植民地を広げたが、その後王朝の継承問題や内乱もあり、その勢いは大きく失墜した。しかし、ユーロ加入依頼着実に西欧諸国の中でも成長を遂げ、1人当たりGDPでは日本を凌駕し、平均寿命も2040年までには日本を上回ると推定されている。このスペインの躍進の秘訣を探り、日本の成長や長寿社会に向けての参考とする。

## 2. 学習内容

- (1) 現代スペインにおける経済成長:スペインと日本の比較・分析、産業構造の分析を行った。
- (2) スペインの歴史:スペインの文化、経済のバックボーンとなっている歴史の調査を実施  
特に、イスラム教支配の時代、レコンキスタ運動とその後のキリスト教時代、近現代、そしてEU加盟後。
- (3) スペインの詳細調査:(a) 宗教・文化が集約された建築、(b) 歴史・文化が凝縮された美術、(c)健康長寿の秘訣である地中海食とワイン、そして(d)スペイン成長のカギであるスペイン人気質
- (4) 国内フィールドワーク:神戸外国語大学 副学長 イスパニア語学科 サンス教授及び同校 イスパニア語学科 野村教授を訪問し、スペインの文化・スペイン人気質・スペインの歴史・産業等を教示頂いた。

## 3. 学習のまとめ

- (1) スペインでは、イスラム教文化・キリスト教文化・ユダヤ教文化が互いを排除することなく、良い所を残しており、フラメンコ等のスペイン独特の文化や壮麗な建築等の世界遺産を残している。また、宮廷文化を中心とした美術も素晴らしいものが残っている。これらは観光資源として、観光立国スペインを支えている。
- (2) スペイン人の真面目な気質が奏功して、EU加盟後、産業の発展が著しい。元々、大航海時代に鉄や造船などの産業基盤を有していたこともあり、工業の進展は目覚ましいものがある。これらにより、1人当たりGDPは世界32位であり、また今後年間2.5%の成長も見込まれる(日本は38位で下降線、0.55%)
- (3) スペインでは、健康に良いと言われている、地中海食(野菜、果物、海産物中心。オリーブオイル、ナッツ等を良く摂る)が中心で、ポリフェノールを多く含んだ赤ワインを適度に嗜み、かつおしゃべり好きで家族を大切にす文化があり、これらが長寿命化の要因と考えられている。
- (4) スペイン経済発展の秘訣は、①雇用の力強い伸びと名目賃金の上昇、②インフレ減速による家計購買力向上、③移民流入を主因とする人口・労働供給増による成長の土台拡大、④スペインへの投資呼び込み、⑤観光産業の成長、などがあり、日本もこれらをスペイン(西班牙)に見習ってLook West、成長戦略を立て活動する事でMake Japan Great Again活動を活性化させる必要がある。

## 4. 海外フィールドワーク

9月2日から、フィンランド・ヘルシンキ経由で、スペイン・マドリードに到着、その後コルドバ、グラナダ、マラガ(ジブラルタル)、バルセロナと回り、ヘルシンキ経由で9月14日帰国した。

訪問地と主な目的は以下の通り。

- (1) マドリード:美術、文化(フラメンコ)
- (2) コルドバ:建築(イスラムとカトリックの融合、ユダヤ教教会)
- (3) グラナダ:建築(アルハンブラ宮殿、カトリック教会等)
- (4) マラガ:食(地中海食、市場)、カトリック教会、ローマ帝国跡
- (5) ジブラルタル:イスラム王朝侵攻、英・西領土問題の地
- (6) バルセロナ:食(地中海食、市場)、現地メンバ面談(長寿・経済)
- (7) バルセロナ:建築(ガウディ他)、美術(ミロ他)、カタルーニャ文化



サグラダファミリア前のスペイン探検隊